ほけんだより

令和8年7月
(2026年)
山田第二小学校
保健室

みんなとあわせないとだめ？

1

にほんでは
ちいさな
ころから
こう おしえ
られます。
「みんなと
なかよくね」
「ともだちが
たくさん
できると
いいね」

だってみんなとあそぶのは
たのしいし、みんなで
ひとつのことを
やりきるのは
すごくきもちいい。

2

でも
フィンランドでは
このように
おしえられる
そうです。
「むりに
みんなに
あわせなくて
いいよ」
「こどくを
こわがるな」
にほんも
フィンランドも
どちらも
すばらしい。

ひとりで
あそぶのは
とてもいいこと。

ののりこんで
かんがえて
たのしむんだ

キャー

まてぇ〜〜

みーつけた

3

でもふたつのくにでは
「ちがい」に
ついての
かんがえかたが
すこしだけ
ちがうんです。
にほんでは
「ちがうのは
ちょっとしんぱい」
「みんなとおなじが
あんしん」
フィンランドでは
「ちがうからこそ
おもしろい」

「きょうちょうせい」も
「こせい」も
どちらもたいせつに
できるといいね。

4

だからね
みんなといっしょに
いたいひとは
いればいいし
ひとりで
いるほうが
らくなひとは
ひとりでいるのも
いいんです。
まずは じぶんを
しっかりもって
しゅうだんのなかで
じぶんを
みうしなわないでね。

ひとにあわせたいのか
あわせたくないのか
じぶんでかんがえてきめる。
あわせたくないときは
あいてがいやなきもちに
ならないように
きをつける。

じぶんが
じく!!

「きみのかんがえは
わかるし すばらしい。
でもじぶんは、こうおもう。」
と、あいてのこともたいせつに
しながら、じぶんのかんがえ
をもっていたら、それこそが
"じぶんじく"です。